



コミュニティ しずおか

2021
10月
No.164



高天神のお米はおいしいよ～米作り体験

高天神こしひかりグループ(掛川市)

▼9月上旬、高天神城を臨む土方小学校前の田んぼから、稲刈りを楽しむ子どもたちの声が響く。5年生に年間を通して米づくりの指導をしているのが、今年で発足25年目を迎える「高天神こしひかりグループ」。他とは違うお米を作りたいと土方地区の米作り農家が集まった。

学校からの依頼で始まった米作り体験は10年以上になる。活動を通じて美味しいお米が食べられる工程を知ってほしいそうだ。「落ち穂を拾わないとお米もったいないよ」の声に反応する子どもたち。この日は約2時間でお米100kg程になる稲を刈った。

◇代表: 鷲山哲朗さん(問合せ・0537-74-2024)

【情報提供・安藤ミエ】

Topics トピックス

クローズアップ P2
絶対生き残ろう、そして地域のために立ち上がろう(西伊豆町)

クローズアップ P6
㊦すけあう ㊧ゆうみん主体の ㊨ちづくり(伊東市)



「ミックス」
のしづき・りえ



創意工夫や新しい手法を活かしている団体を紹介します。



左上:2018年土砂かき支援 左下:2021年コロナ禍おにぎりづくり 右:2015年my防災マップ作り(ハザードマップのベースになった)

絶対生き残ろう、 そして地域のために立ち上がろう

西伊豆町

西伊豆町災害ボランティア コーディネーター連絡会

伊豆半島西海岸中央部にある「ふるさと」と言いたくなる夕陽のまち、観光業と漁業が中心の西伊豆町。海と山に挟まれた人口7,400人の町は2013年に豪雨災害に見舞われた。この町で「絶対生き残ろう、そして地域のために立ち上がろう」を合言葉に活動を展開する「西伊豆町災害ボランティアコーディネーター連絡会」（以下「西伊豆町災害VC連絡会」）は、災害時におけるボランティア活動が円滑かつ効果的に実施されるために必要な支援活動をしています。代表の仲田さん、副代表の高木さん、山本さんに話を伺いました。

東日本大震災が活動の出発点

2013年、県が毎年賀茂地区（1市5町）を対象に開催していた「災害VC講座」の修了生57人で結成。現在会員111人、平均年齢67才、男女の比率は3：7と女性が多く所属している。

実は会を発足しようと準備していた矢先の7月に西伊豆町豪雨災害が発生。混乱している災害現場に入り、適切な支援を届けるためには他の活動団体や自治会との連携の必要性を痛感。また、現場はマニュアル通りにいかない。被災後にボランティアの支援を受け入れる能力「受援力」を住民から行政まで高めていけば迅速な支援に繋がる等、多くを学んだと言う。



災害義援金の街頭募金活動。7月に伊豆山土砂災害被災地支援の街頭募金を行った

新型コロナウイルス感染症クラスターの発生 連携による迅速な支援を実現！

今年2月に町内の介護施設でクラスターが発生。心配した仲田代表が施設長へメールを送ると、調理人員の確保が難しく入所者の食事を作ることが出来ない状況になっていることが判明。クラスターが発生した施設への支援は、厳密に言えば会の活動範囲外。しかし「困っている人は助ける、そこでしょ！」と声を上げ、社協に相談したところ即座に調理場を提供してくれた。メールに反応した会員数十名の調理シフトをその日に組み終え食材は施設保管の材料で調達。翌日から職員と入所者約40人分100個のおにぎりを届けた。施設の体制が戻るまで38日間に及ぶ「昼食支援」は、町や社協、賀茂地区のVC仲間の応援と連携があったからできたことと言う。「私たちの活動は、通常の災害ボランティア活動とは違うかもしれませんが、ただ困っている人は助ける」と代表。それは会員共通の思いであり活動の原動力、会員の誇りだと言切る言葉は信念にあふれ力強いものでした。

地域に寄添い 地域に合わせた活動

会員を対象にした「ボランティア本部立上げ訓練」「避難所運営訓練」「防災講座」。町の広報誌、Facebookでの活動報告。社協主催のお祭りでのPR活動。一般の方も参加できる「サバイバル炊き出し訓練」。災害現場へ



避難所運営研修

のボランティア出動と活動実績を積み重ねていく中で認知度が上り、ようやく自主防災の話し合いに西伊豆町災害VC連絡会が入れるようになった。玄関に自転車を置くのをやめる等、住民の防災意識が変化したことも大きな励みになっている。

今後は集落ごとにあるサロンを訪問し、その地区にふさわしい災害対策のワークを実施することも検討している。

お話を聞いて

最後に災害への心がけを問うと「自分の地域にある危険をよく知ること。備えは一様ではない。大事なことは生き残ること」「津波浸水域に住んでいる人は備蓄品は用意しない。キャッシュと携帯、ソーラー充電機を持って逃げるだけ。備えはシンプルでいい」と答えてくれた。なるほど、山間地に住む私は飲み水と食料の備蓄を心がけているが、これからは「生き残ること」を意識した備えをしたいと思う。



ZOOMでの取材
左から:山本さん、高木さん、仲田さん

◇代表:仲田慶枝さん
(問合せ・0558-55-1313(西伊豆町社協))

【情報提供・富川あおい】

レポート・海野ふさ子 編集委員

沼津市

まちの駅「我入道」住民の交流

第三地区
社会福祉協議会



産地直送野菜は大人気

- ▼去る7月20日に我入道連合自治会館にて「町の駅我入道」が開店した。住民は、産地直送の野菜や果物、パンや日用品を自分で選び、店主と会話を交わして買い物を楽しんだ。
- ▼第三・第四地区は近隣にスーパー等がなく、高齢者の買い物支援に対する声が上がっていた。そこで、地区社協が中心となりコロナ禍で家に閉じこもりがちな高齢者が外に出て交流の機会も兼ねて、2か月に1回の販売会を実施したところ、第1回目は商品が30分で売り切れになるなど大盛況であった。3回目の今回はコロナの状況を踏まえ、室内販売から野外販売に変更。食中毒防止の為弁当の販売を止めたせい以前回に比べ参加者が少なかった。
- ▼「歩いて来られるから便利」「バスに乗らないと必要なものを買えないので、定期的に開かれるなら利用したい」「知り合いに久しぶりに会えて嬉しい」等の声が聴けた。始まったばかりで改善点は多くあるが高齢者の買い物の場、交流の場として続けていきたい。

◇代表:山田文朗さん(問合せ・055-931-3100)

【情報提供・田邊高典】

焼津市

「魚と歴史と小泉八雲の町 焼津」を案内

やいづ観光案内人の会

▼焼津の歴史や文化など、知られざる焼津の魅力を伝え、思い出に残る旅を案内しているやいづ観光案内人の会。平成29年に焼津市観光協会主催の観光ボランティアガイド養成講座が終了となり、2年間勉強した事がこのまま終わるのはもったいないと同年5月有志で発足した。大学生から主婦、在職中、リタイヤ組と20～80代までの焼津愛にあふれる35人(平均年齢65歳)からなる団体である。

▼県内唯一の重要伝統的建造物群保存地区の「花沢の里」、魚のまちの佇まいの「浜通り」、小泉八雲が散策した道をたどる「小泉八雲」の3コースを案内する他、市内公民館での出前講座、小学校や焼津水産高校の授業一環で浜通りの歴史の案内をしている。

▼会では、月数回の模擬案内会を実施したり自主勉強したり、案内のレベルアップを図っている。「常に発見し新しい知識が増えとても面白い」と金井代表。マグロやカツオだけでなく、埋もれている新たな焼津の魅力を発掘し皆さんに伝えていきたい。

◇代表:金井富保さん(問合せ・焼津市観光協会内054-626-6266)【情報提供・片山進自】



心温まる素朴な解説が魅力

袋井市

「ちょっとした困りごと」を支援します!

浅羽・笠原まちづくり協議会
生活支援ネットワーク



住民同士が支えあい住みよいまちづくりを目指す

▼令和2年4月に浅羽・笠原地区(8,000世帯)の住民を対象に日常生活でのちょっとした困りごとを支援する組織、浅羽・笠原生活支援ネットワークが発足した。役員5人、相談員12人、住民有志の支援員72人(兼任あり)で、利用登録者55人の掃除洗濯、ごみ出し、庭の草取り、植木の刈込、買い物代行、荷物の発送等に対応している。

▼独居高齢者のみならず病気やケガで動けない方、子育て世帯、要支援・要介護世帯等あらゆる層が気兼ねなく利用できるよう、ごみ出し1回100円、家事サービス30分毎250円からと安価に設定。ただし、若い人と同居している方や単に安いからとの依頼はお断りしている。利用者からは「自分で出来ない所を綺麗にしてもらい嬉しい」等のお礼の声が多く届いており支援員のモチベーションとなっている。

▼2ヶ月に1回、運営委員会を開催し課題の対応や情報交換を行い要望の多い移動支援も開始しようとプロジェクトが進行中。令和3年度中にも実証実験を開始する目標で進めている。

◇代表:永田 進さん(事務局:東原 090-7670-5279)【情報提供・峰野 勇】



磐田市

Reboot School (再起動)

リポートスクール
実行委員会



当日出店OKの子どもガレージセール 店長は子ども達

- ▼去る3月20日、磐田市立豊岡北小学校で「Reboot School」が開催され、約1,700人がイベントを楽しんだ。「老若男女が新しい自分を見つけ、満ち溢れた多様性を認め合う人生をReboot(再起動)する」をコンセプトに、スポーツ、芸術、音楽等の市民団体が、大学のサークル勧誘日のように体験教室やパフォーマンス披露。子どもから大人まで新しい人と世界に触れる機会となった。また、学校周辺の店舗で雑貨や飲食の販売、夜は打ち上げ花火をYouTubeライブ配信した。
- ▼代表の川合さんは「私たち大人が子どもたちに対し、社会人になることに夢を見せているだろうか」と思っていた。イベントを開催し多くの方と出会い、話し挑戦することで「地元の魅力に気づいてもらえるはず」そんな思いで企画した。
- ▼当日のスタッフは9人。少ない人数で開催できたのは関わる団体、企業、人に自主的に動いてもらったからと言う。「同じ様にやってみたい方にはノウハウを教えます」と代表。次回は令和4年3月21日に決定。参加者を募集中。

◇代表：川合伯員さん(問合せ・0539-62-9010)

【情報提供・安部詠司】

浜松市

日本語教室は在住外国人との交流の場

浜北国際交流協会

- ▼毎週土曜日、浜北文化センターで浜北区及び周辺に在住する外国人を対象に日本語教室が開かれている。主催する「浜北国際交流協会」は日本語能力試験への合格のお手伝いはもちろん、日本文化体験、軽スポーツ、季節ごとの日帰り旅行、料理体験を通じて地域住民との相互理解促進や日常生活のルールの理解を目指している。
- ▼この活動を支えているのは15人の市民ボランティアの方々。元先生や誘われて参加している方など60～70代の方々を中心となり日本語の指導の他に日本の文化体験(着付け、書道、茶道等)の講師として活躍し若い世代の生徒と交流を楽しんでいる。積極的な方が多いので「できる範囲でお願いします」と事務局ではボランティアの負担が大きくなるように気を付けているそうだ。
- ▼1回100円で受けられる教室は大人気。日本語教室は地域在住外国人との和やかな交流の場となっており、教室を巣立った元生徒からの感謝のメールが届くという。今後もホッとできる居場所の一つとして、地域と生徒を繋ぐ場として活動を続けていく。

◇代表：内藤好勇さん(問合せ・053-587-4453)

【情報提供・佐藤勝彦】



日本文化体験の着物体験は1番人気

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます(アドレス <http://www.sizcom.jp>)

No.	市 町	活動名	主催者	趣旨・目的	月 日
1	伊豆市	地域の人たちが協働で生きがいを創出	伊豆大見の郷「季多楽」 農林産物等直売所部会	生産者会員の生きがいを創出する。	総会 年1回 役員会 年1～2回
2	伊東市	伊東市市民後見人養成講座 ～できればボランティアで～	伊東市社会福祉協議会	成年後見制度の担い手にボランティアの市民 後見人を養成する。	全10回 月1～2回
3	函南町	正しい呼吸法でいつまでも健康で楽しく 若々しく!	コールうらら	合唱を通じて交流づくりから始まり、健康づ くりと心の支え合いの場	月2回 第2水曜日
4	森町	古紙回収でSDGS	明るい社会づくり運動 森地区協議会	環境を守るため上質古紙を回収し再利用につ なげよう	月1回 第3土曜日
5	湖西市	不登校の子が自分の良さに気づく場所	あなたの居場所 ルクラ	不登校(気味)の子が安心して過ごしたり、 保護者が安心して相談できる活動	週2回



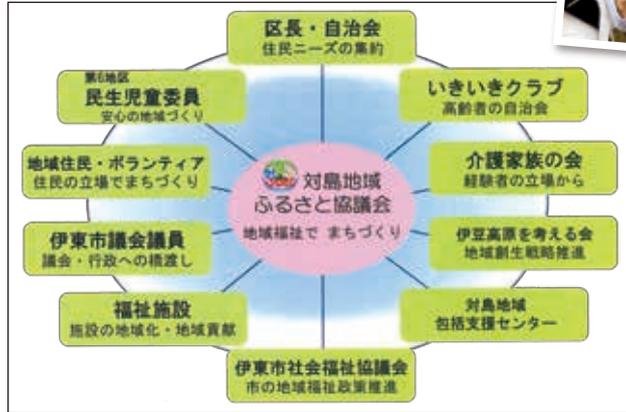
創意工夫や新しい手法を活かしている団体を紹介します。



ふるさとカフェで開催した、フラワーアレンジ教室



前列左から
蛭川さん、森さん、
三島さん、上野さん
後列左から
荻原さん、富岡さん、
佐藤さん



現在の構成団体と役割

たすけあう じゅうみん主体の まちづくり

対島地域ふるさと協議会 (伊東市)

高齢社会となった今、「高齢者が住みよいまちづくり」はどこの市町も課題の一つですが、地域や環境によって取組はそれぞれ違います。伊東市の対島地域(約8900世帯)は、地元住民と別荘地移住者の人口比率が半々、高齢化率50%以上と特徴ある地区です。どんな会なのか早速ご紹介します。

「ふるさと協議会」とは

終の棲家として移住して来られる人の多い対島地区は、特に高齢化が著しい。森代表は、以前から少子高齢化社会でも安心して自分らしく過ごせるには、地区社協のように地域で支え合い、助け合っていくための組織が必要だと思っていました。このことを、対島地域にある富戸、池、八幡野、赤沢、別荘地の自治会に呼びかけ賛同を得たうえで2015年、自治会・民生委員会・老人会等の住民団体と地域福祉関連諸団体の連携を図り、課題を共有して解決にあたる「対島地域ふるさと協議会」を市社協バックアップのもと住民主体で結成しました。

ノウハウを活かした活動

取材で訪れた一軒家「ふるさとカフェ」は、中に入ると懐かしい学校の机が置かれ、壁には川柳が貼られています。

ここでは毎週火曜日に「ふるさとサロン八幡野」と「認知症カフェ」が交互に開催され、川柳教室や演奏会、脳トレ等を実施。介護老人福祉施設伊豆高原十字の園の「地域交流ホール」でも「いきいきサロン」を開催。また八幡野コミュニティセンターでは、会主催の年間活動として「百歳志塾」を開講。人生百年時代に向けて「生かされる」のではなく、「生きる」を考え、自らの老いを自分らしく過ごすことをコンセプトに毎回、講義とグループ討議を大事にしています。

民生委員を8年務めた「ふるさとサロン」の蛭川さん、元郵便局員で地元を良く知っている荻原さん、「百歳志塾」を企画運営している三島さん、「いきいきサロン」を開始当初から中心となって支えてきた上野さん等、各自が持つノウハウを活かして対島地域を住みよい魅力ある地域にしたいという同じ思いで活動しています。

高め合い支え合い共に生きる

それまで対島地域の4地区は、地理的事情などもあり、お互いに距離があったそうですが、会が発足し、構成団体の話し合いの場が設けられたことで、それぞれの団体や、地域が何について困っているのか? 相互に理解し合い、アイデアを出し合うことで、連携協力ができるようになりました。嬉しいことに、対島の活動に刺激を受け、隣の小室地域にも「ふるさと協議会」が発足したそうです。

「地域の課題を共有し連携協力することで課題の解決を図ることができるよう専門家集団としても勉強を重ね、ノーマライゼーションを地域に定着させたい」と代表の森さんは力強く語ります。

「老う」ではなく「生(おう)」

人はいつか老い、死を迎えます。定年後ふと、今を感じた時、一人になり、自分を見つめた時、「生きる」をふと考えます。どんな肩書があっても、老いの社会は共存共栄。老うではなく「生(おう)」。取材に同席された皆さんからも、今まで培ったノウハウを出し合い、お互いを高め合いながら活かしかう姿が見えます。そこに本来の高齢化社会の生き方があると、取材をして思いました。

◇代表：森 茂廣さん(問合せ・0557-54-2000)

【情報提供：佐藤みつ子】

レポート：市川頼子 編集委員

出張コミカレ in 下田を開催しました

7月10日、11日の2日間にわたり開催した出張コミカレ。23の方が参加し、地域づくりの手法を学びました。受講生参加型をキーワードに、講師の先生と、受講生同士と、受講生一人一人が発言する機会を多く作りました。



～受講生の感想～

- ・少人数でよかったが、もっと多くの人に聞いてほしいと思いました。
- ・企画書が一つまとまり、新しい知人が増え、これからの活動の広がりを感じることができた。
- ・同じ目的を持った各団体が顔を合わせての意見交換は意義があると思います。



コミュニティ活動集団12集団を指定

令和3年度の「コミュニティ活動集団」は、次の12集団を指定しました。それぞれの地域でコミュニティの活動のさらなる飛躍を期待します。10月から12月にかけて訪問指導を行います。

■裾野市	裾野市消防団 東分団 (消防団クラブ)	消防団員の「得意」を子どもたちの「居場所」に！
■沼津市	東桃郷居場所づくりサロンももの会	地域高齢者の居場所づくり
■静岡市	草薙テラス	誰でも寄れる、過ごせる、相談できる、みんなが集まり (テラス)
■静岡市	wanna×wanna (ワナワナ)	子どもから大人まで楽しめる場所みんなの夢を実現していく場をつくっていききたい
■藤枝市	やらざあ美花 下当間	地元の道は地元の皆の力で美しく保とう
■藤枝市	ふれあいサタデーパーク	上く遊び 上く学べ
■島田市	しまだきものさんぽの会	着物の街、島田市を着物でいっぱい！
■川根本町	かわねふるさと応援隊 KiTeGo	私たちの町の魅力を再発見しましょう！
■菊川市	つながる菊Caféプロジェクト	未来を生き抜く力をともにはぐくもう！
■御前崎市	Omaezaki beach cleanup	御前崎市内の海岸の環境美化
■磐田市	磐田ノルディック・ウォーク愛好会	ノルディック・ウォーカーとしてのマナーを守り心と身体の健康を目指しましょう！！
■磐田市	特定非営利活動法人羊の会	高齢者の為の施設「うたふく」の運営



常務のつ・ぶ・や・き

「スポーツの持つ力」を信じて開催された東京オリンピック。連日のメダルラッシュや新たな競技種目など話題に事欠かず、日本中がひとつになったような気がする。

勝負の世界は厳しい。メダリストが注目されるのは当然のことだと思うが、メダルに届かなかった選手の気持ちを案ずると胸が痛む。想像を絶する努力を重ねても結果につながらないことがままある。

「当日の体調管理と強い気持ち、それをひっくるめて乗り越える先に栄光がある。」昔のスポ根ヒーローはハッピーエンドだから、こんなゴリゴリの指導もあったと思うが、現代の若者アスリートにはなじまない。

女子スケボーの有力選手が逆転を目指し最後の大技に挑戦。これが決まればと願ったが転倒。悔し涙を流す表情がアップになった。そこに駆け寄り、チャレンジを讃え、ハグする選手たち。選手の輪を見て、金メダル以上の感動を覚えた。

「相手を理解し尊重すること」を基本とするオリンピック精神。連帯感や寛容の心など、今、私たちが大切にしたいものをアスリートから教えてもらったような気がする。逆境を乗り越えるためには、今や「根性」ではなく「レジリエンス」(回復力、弾力性、しなやかさ)という言葉がふさわしいと感じた。





地域活動に関心のある方へ! 募集します

※お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ

★コミュニティ活動賞募集中!!

コミュニティづくりを通じて潤いと活力ある地域づくりに努力している地域の皆さんの活動を募集します。

応募の対象と条件についてはホームページをご覧ください。

- 優秀賞……賞状と副賞 3万円
- 優良賞……賞状と副賞 1万円
- 奨励賞……賞状



発表：令和3年12月初旬

★コミュニティづくりの基礎、話し合いの仕方を学んでみませんか

令和3年度 コミュニティ・カレッジ

対象 コミュニティづくりに興味のある方

募集人数 45人(先着順)

県内各地でまちづくり、地域づくりに活躍する方を講師に迎え、対話しながら講義を進めます。2日目は、県内で活躍する3団体の事例発表、3日目は企画書づくりと充実した内容となっております。

※ZOOM参加可能(10/30、11/27のみ)参加条件あり。

希望者は必ず事前にご連絡ください

		10:00~12:15	13:00~15:00	会場
1	10/30 土	「私が変わる地域が変わるつながるコミュニティ」 静岡福祉文化実践研究所長 平田 厚氏	「今、そして次の一歩を考える」 合同会社デザイン・アープ代表 川口良子氏	静岡市 グランシップ 910
2	11/27 土	10:00~ 「地域づくりの土台作りという視点」 裾野市東地区おやじの会 何にもしない合宿実行委員長 小田圭介氏 事例発表 静岡市：清水岡地区堂林自治会（IT活用） 静岡市：かるがもレスキュー（子育て支援） 島田市：チームおもしろ五和駅（地域活性）	~16:00	
3	12/11 土	コミュニティ実施計画書づくり 地域デザイン研究所長 望月誠一郎氏		シズウェル 703

令和3年度 出張コミカレin掛川

対象 掛川市またはその周辺地域の方でコミュニティづくりに興味のある方

募集人数 30人(先着順)

		10:00~12:15	13:00~15:00	会場
1	11/13 土	「コミュニティの一員として次の一歩」 合同会社デザイン・アープ代表 川口良子氏	「持続可能な地域づくり」 一般社団法人SACLABO代表 渡村マイ氏	掛川市 大日本報徳社 大講堂
2	11/20 土	「コミュニティ活動実践のみちしるべ」 福祉イノベーションDo-zo協同組合理事長 神谷尚世氏		

コミカレアフター研修会 & コミねつと支部研修会

●東部支部
開催しません。

●中部支部
令和3年10月16日(土)
会場：チャリム21(島田市)

●西部支部
令和4年1月25日(火)
会場：ワークピア磐田(磐田市)

